

## 練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第4回）「心の教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成21年7月30日(木) 午後4時00分～午後5時40分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	生越詔二、佐藤宏、石原正義、久能正吾、一ノ瀬秀治、山崎高志 濱元雅俊、相田真人、小林昭文（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	栗原健 指導主事

### 1 挨拶

#### 部長

今日はそろそろ形に近づくため、カリキュラムの重点項目、様式等について、項目等を決めていって形に近づきたい。

#### 事務局

午前中、去年本区の資料作成委員会においてご指導いただいた、早稲田大学の安彦忠彦先生の講演会を聞いてきた。改めて「生きる力というのが何か」について触れていた。中教審の資料にあるとおり豊かな心の枠は、確かな学力、健やかな体を含めた枠となっている。すべての学習において、やはり豊かな心がかかわってくる。今日は、形にできるものが何かというイメージができればと考えている。

### 2 協議

#### 委員

前回出ていた宿題で、カリキュラムの重点項目を何にするのかということ。まず、重点項目のほうから決めていきたいと思う。

#### 委員

項目はまず答申から四つ抜き出し、心の教育は「共通に身に付けるべき心」というふうに、四つの心として少し言い換えた。1ルールを守ろうとする心、2生命を大切にしようとする心、3よりよく生きようとする心、4よりよい人間関係を築こうとする心とした。

それぞれの心について育てるカリキュラムを考え、裏で実践例ということはどうすればよいかというのを出せばイメージがつくかと考えた。

#### 委員

答申を見ていると、規範意識という言葉がすごく強調されている気がしたので、一番上になっている。規範意識を中心として、生命尊重、自尊感情、思いやり、情報モラルを別に柱として立ててはどうかと感じた。それぞれどんなことをして身につけていくか。「～する心」とまとめるのはいいと思った。それぞれの項目の四つの柱については、①～④に書いてあるとおり。情報モラルも、きちんとマナーとかルールも教えることを特色として打ち出したらどうか。

#### 委員

僕は形を考えた。前回と違うのは、内容項目の下に資料名が入っていること。各教科で関連する道徳とのことを考えて書いていただくが、内容自体ではなく教え方・授業形態自体も道徳的なものがあるだろう。例えばお互いに教え合うという授業形態をとれば、それ自体も道徳的だろうということで、それも含めて書けることを考えた。

次のページは、本校では学級経営案というのがあるので、そこに道徳教育の学級指導計画が含められないかと思った。2ページの学級経営案に道徳の指導計画を少し意識して入れたものがブルーの部分。学校や学年の重点項目を受けてクラスですが、いろいろな状況の子がいる中で、そのカリキュラムをできないときがある場合、学級の重点目標とか配慮事項を書かなければ失敗するのではないかと思い、こういうものを考えた。

#### 委員

1ページ目が重点項目に関すること。区の方針のほうに出ているものを挙げたのが(1)～(4)。規範意識、生命尊重、自尊感情、思いやりの心。最近の状況を見て情報モラルも設けたいところだが、規範意識のほうに入れることができるかと。(5)以降は、区の方針に直接文言は見えていないが、道徳教育を考えた場合、こういったものも重要かと。新学習指導要領などでも国際的視野とか、国際社会のことを重視している。余力があれば、それも入れてもいいのでは。

基本的に最低四つはおさえるということをお願いしたい。問題はこの四つでいいのかどうか、広げるのか、または情報モラルを規範意識に入れてしまうのか。

#### 委員

情報モラルは区の生活指導主任委員会などでは、四つの柱立てみたいな形で扱っていないようだ。現在では、連携を図っている警察、業者、NPO もあって、いろいろな情報モラル教育のカリキュラム、CD とか副読本がずいぶん整った。小学校でも指導を始めているし、もちろん中学校でも。一つの柱立てにするには、情報モラルや情報モラル意識、情報モラル教育という形にするのだろうか。規範意識にたぶん入ると思う。そうすると、規範意識はかなり広いカテゴリーになる感じがする。一ノ瀬先生のレジュメを見ると、例えば(5)の礼儀・マナー・基本的生活習慣は、規範意識とどこが違うのか。(6)自然愛護・生命に対する畏敬の念は、生命尊重とどこが重なり合うのか。そう考えていくと、規範意識をどういうふうに捉えるか、何をするのかがもう少し深まると、情報モラルをここに吸い込んでいいのか、別立てしなければいけないのかが出てくるのではないかと。

#### 委員

私はここでは規範意識というのは、ルールとか法律とか絶対に守らなければいけないことを書いた。(5)はマナーというか、常識的なところ、これを守ることによって社会が円滑になるようなこと。情報モラルは、私は規範意識に入れていいと思うが、マナー、思いやりの心など、いろいろ絡んでくるのかという思いもある。

**委員**

道徳の価値としては、情報モラルというのではない。だから、重点項目として情報モラルは挙げられないが、それを意識してカリキュラムに入れていくだけでよいのではないかと。

**委員**

情報モラルの扱いは、今のようなことでよいか。いろいろな項目の中に事例として入れていくことで、多角的に見ることができるのではないかと。

**アドバイザー**

よいのでは。情報モラルという文言は、今回の学習指導要領の中で初めてうたわれた。ある意味で非常に今日的な状況を表した事柄だと受け止めている。規範意識とか思いやりの中にもほとんど含まれてしまうという解釈のほうが、ごく自然な感じがする。

**委員**

情報モラルは規範意識とか思いやり、生命尊重などいろいろなところで題材として使えると思う。

**部長**

その四つでいいか、もう少しいいかどうか。私などは例えば自制とか我慢などが何か必要と思う。礼儀とか挨拶とか言葉づかいとか、何か一緒に扱えるのかとも考える。

**委員**

個数については、四つの項目は成長期に合わせてスパイラル的にずっと扱わなければいけないものなので、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期の期間とは連動しなくてもよいと思う。同時並行で何回も繰り返しながら高めていくようなスパイラル的な扱いで項目の数は変わるのではないかと。

**委員**

私は練馬区らしさもそこに少し取り入れられたらと思う。さらに、郷土や国を愛する心も大事にしたい。

**事務局**

練馬らしさをいろいろ挙げていただきたい。例えば、本区の成人式においては練馬区の歌に馴染みがない成人が多いので小学校のころから練馬区民として練馬区の歌に慣れ親しんでほしいということや、環境問題について緑被率を上げる「みどり 30」などを区の施策として行っている。学校教育に生かせる特色について意見いただきたい。

**委員**

昨年、本校は周年行事をしてそこで練馬区の歌を歌った。音楽の先生も結構取り上げてくれた。昼の放送でも1週間に1回か2回流した。その結果、生徒は大きな声で歌ってくれた。

#### 委員

うちも30周年をしたのだが、そこまでは思いがいたらなかった。

社会科では「私たちの練馬」という冊子を作っている。それを利用しながら、練馬の勉強をするように心がけている。練馬らしさを考えるのに、郷土を愛する心はとても大事なことだと思う。その中で練馬では将来にわたって引き継いでいきたいものがあるのかどうか。第1回するときにも、地域の方がどのように公立の学校教育に希望を持っているかデータを見せていただきたいとリクエストを出したが、そのへんが少しよくわからない。

#### 委員

私も練馬に来て5年目で、練馬らしさが何かと思ったときに、練馬区は東京都23区で一番最後にできた区ということ。それから、練馬区にある学校はほとんどが地主からの土地提供で成り立っていることも、一つのキーワード。それから道徳教育をするのに地域資料と言われるが、その前に学校資料がすごく大事だと思う。

#### アドバイザー

答申を見てみると「練馬区独自の小中一貫教育カリキュラム」という表現がある。「練馬区独自の」ということを考えるときに、練馬らしさなのか、あるいはこういうことを考えたという独自性なのか、いろいろ考え方はできると思う。それにとらわれて、全体をつくるのに苦労してしまうのでは目的と手段が逆。道徳でいうと、子どもたちは練馬区で生まれ育ったことに対してどう思っているか、郷土愛の核になる部分だと思う。小中学生が自分が生まれ育ったところを好きだという素朴な感情が、結果的に帰属意識などにつながっていくもの。大都市化現象の中で、子どもたちがどの程度意識をもっているか。練馬区独自の「一貫教育カリキュラム」という意味で、盛り込めるのかどうか。なんらかの形で残したい気がする。さらに練馬区らしさという意味でいえば、地域の人々の願いとか保護者の願い、期待を計画の裏側ににじませるような独自性も考えられなくはない。

#### 委員

行事として臨海学校に関する資料で道徳ができれば練馬区らしいかなと前から思っている。

#### アドバイザー

地域社会の教育力の低下、核は何か。連帯感の欠如、低下と考えてしまう。連帯感の喪失は、心への見えない影響にもなる。それも練馬区独自の中に出てくれば、独自のものになるという気もする。カリキュラムをすべて作るのは難しいが、多少取り入れるというスタイルならば可能では。

#### 委員

私が練馬に来て連帯感で一番思い出すのは、避難拠点の訓練。防災訓練をするために各小中学校に地域の人が集まって、毎月のように会議をしている。実際に年に1回訓練を行う。これが練馬区のすべての小中学校に入っている。そういったことは扱えなくはないのかと思う。

#### 委員

扱いとして、情報モラルを必ず位置づけようという話と同様に、地域に開かれた教育活動として何かできるのではないかと。地域と連動して何か活動することでつながっていくのではないかと。だから、地域の結合が喪失してしまったところでは、もう新しく再生するしかない。それには、おやじの会とか保護者との連携が必要。

#### 委員

北町中は地域の人とお祭りをしている。夏の阿波踊り。光が丘などでは地区祭をしている。練馬中すべてある。石神井東中の周りは谷原地区祭があった。

#### 委員

今、地域とかかかわっていて、連帯感をどうやって生み出していかを強く思う。それには、学校は中心になれるし、校長だったら校長の立場での発言力がある。やはり地域や保護者、おやじの会を含めて、どうやって連帯感を高めていくかということ。うちなどでは今、学習ボランティア的なことで連帯感を作って、おやじの会を少しずつ活発にしているところだ。

#### アドバイザー

イメージを逆に言うと、先生方は自分の乳幼児期、児童期、青年期に懐かしく思い出される事柄があるのではないかと。自分の生まれ育った地域、土地に関わっていないか。よい思い出として残っているものは、人生、心を豊かにすると思う。そういう意味で子どもの頃のことが、いつまでも残っているイメージ。例えばお祭りなどは一体感を盛り上げる。私の子どもの例で言えば、今も覚えていてまさに心のふるさと、思い出になっている。こういうものが心の豊かさにつながる。そういうイメージで連帯感、土地とのかかわり、所属帰属意識につながるものが何かのぞかせられると「らしさ」につなげられるかと。先生方が自信を持ってこうだと、一つでも語れる語り口があればと思う。

#### 委員

社会連帯の自覚というところを、先ほどの4点のほかに入れることができるかと思うが、いかがか。文言は少し変えてもいいと思うが、連帯感というような項目を扱うということによいか。次、様式等をどのような形にするか。

#### 委員

基本的にいくつか種類があったほうがいい。一つは一ノ瀬先生が出したようなものが必要だと思う。それプラス、重点に出てきたものについて、それぞれの役割をⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期でまとめて流れがわかるようなカリキュラムが必要なのではないか。更に少し単元的に計画したほうがいいということになれば、指導のしかたについて単元のやり方の例示を出す。その三つの資料を用意したらどうか。

#### 委員

いま決まった五つの柱について、各教科等との関連がわかる一ノ瀬先生の資料1、2のよう

な資料。もう一つ、各学年での各教科と道徳との関連がわかる一覧表の二つを作るというのではないか。

#### 委員

先生方に道徳の授業をしてもらうことが課題。どういう形ならば、道徳の嫌いな先生でもできるかを一番に考える。そのために何月には何をやるべきだ、という具体的な資料名が必要であると思う。どういう形になっても、今月はこれ、資料はこの中から選ぶ、または内容項目とそれにあった資料を選ぶという形がしっかりと明示されている形がいいと思う。

#### 委員

この前に出した資料1、2は各規範意識とかに関して、各学年ごとに流れを出したもの。資料3はやはり、月ごとに具体的に書かなければやらない、というのはもつともだ。月ごとに自覚させることによって、授業が意識して進められるのではないか。山崎先生のような資料もあればいいと思う。

#### 委員

3年間でこういうことを教えたい。そして各学年でこういうことを教えたい。そのためには月ではこういうことをするのだということがはっきり決まって、各月の細かい資料名が出てくれば、生きた資料になると思う。ただ各月の指導する資料名が書いてあって、ただやっていくだけではなく、35時間の指導の流れができていくと素晴らしいものができる気がする。

#### 委員

各期、年間を通したものの、さらに月ごとの細案の3段階。反対に、9年間全体はいらないのか。

#### 委員

各期と、全体と何が違うのか。Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期の大きな期か。私もその分け方には賛成だ。やはり全体構想で概念的なものは絶対に必要だ。各期になっていてもいいし、一覧の形で全体構造になっているものでもいい。ただ、1枚では網羅できないので、もう少し具体的なねらいなどが書き込まれているものがほしい。それで具体的な教材が何かということで、3段階のものがないと。

#### 事務局

相田先生の話は中学校の実態だが、小学校はでどうか。道徳の時間だけを現状で考えたときには、教材とねらいとする価値、内容項目があれば、あとは学級担任に任せてほしいという意識があるのではないか。

#### 委員

基本的には道徳であれば、心配はない。資料名、副読本はどれを使うかと。重点としたときに、ほかの授業、内容項目とどこが違うのかを出さないと小学校では逆に物足りない気はする。

#### 委員

一般的に小学校の方が道徳が進んでいて、中学校が遅れている。小中一貫になったときに、中1の段階で指導がまったく違う道徳の内容になってしまう。

#### 委員

私もそれを感じる。小学校のように時間割の枠を開け放つようなフレキシブルな形は、中学校では難しいだろうし、小中一貫校をつくったときにどういう枠組みになっていくのか。Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期で目標はどうするのか、どういう子を育てるのかを、私たちはわからずに教材を作らなければならない。授業の形態がどうなるのかもよくわからない。地域性とか連帯感を生かしていくためにはどうするのか。どのへんをねらいに作っていけばいいのか。具体的なものを作るときにあいまいにしておくと、できないところがあると思う。

#### 委員

今まで僕たちが出している道徳の全体計画がある。それが道徳に関する大まかな学校の思想であり、そこに概念的なものを書いていって、こう進めるというのは例年通り出していく。それをもとに別様の形で人権や各教科とのかかわりを書いて意識してもらおう。

各教科から道徳の授業へのアプローチは、小中でかなり違う。心のノートの何ページが関連があると書くだけでも、できるかも思ってくれるかもしれない。小学校は今まで通りの授業の形態でやっていっても構わないと思う。細かい年間計画をやってもいいし、別の方法でやってもいいという柔軟性があればいいのではないか。中学校の場合はそうはいかない学校が多い気がするので、最終的には一つの授業に関して指導案がきちんとできている形にしたいと思う。

#### 委員

小学校ではどういう形態でこれを子どもに提示するイメージがあるか。中学校はやはり、道徳の授業中心になってしまうイメージ。今私たちがこれから考える小中一貫校の、特にⅡ期をどういうイメージでとらえるかがすごくポイント。

私のイメージは、Ⅰ期は小学校の経験豊富な先生が、幼稚園などとの連携で母性を発揮したり、子どもを見守りながら育てていく時期。問題は小学校と中学校がかみ合う、やはり中1ギャップ。そこに何があるのか。それと中学校から見て、4年生くらいのときに学力的な超えられない部分を抱えている子がいる。もう一つ、小学校6年生と中学1年生のものの違いをどうするのか。教科的なことで考え、教科担任制でいくとしたら、ある程度道徳の時間とか総合の時間などのカテゴライズをつくっておかないと、実現できないのではないか。小学校がすごくうらやましいのは、時間を弾力的に使って現実的な対応をして、子どもの瞬間を逃さないでできる部分。中学校でも意外と大事なのかと思う。それを小中一貫の売りにできるところもあると思う。

#### 委員

小学生から中学校に入る前に、中学校は怖いということで中学校に入ったらしっかりしようと思ってしまう。だから、生活指導もその段階でやりやすい。そういうのがなくなってしまう

う。

#### 委員

それを上回る何か魅力を考えないと。正直、中学は制服着るなどまったく違うという言い方をうまく使いながら、仕切り直しできることもある。

#### アドバイザー

今の議論は大変本質論ではないか。私はそこに必ず行きつくと思った。要するに、中1ギャップがこの検討会を立ち上げる一番大きなきっかけ。小学校とは、中学校とはこういうもの、と市民権をずっと得ていたものが、いざ子どもが入ってきたらそれに馴染めなくなってきたという現象が中1ギャップなのだと思う。そこをどうするかを、今議論しているのだと思う。

小中一貫校でⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期、それぞれの特色をもったカリキュラムということだと、実際に今の練馬区のほとんどの学校は使えなくなる。そのあたりをどうするかは大変大事な議論だ。具体的にどうするかということになると、使えなくなってしまう。そうすると、苦労したことがなんのためにということになってきてしまうから、これは時間をかけてもいい。

#### 事務局

来年実際に教材をつくる場合に、今年度中に予算編成をしなければいけないので、どんなものかを作るかは少し考えておいてほしい。最終的には10月にはほしい。

考え方としては、四つの分科会がそれぞれ必要に応じて冊子やワークシートなどを作る。つまり、先生たちが実際に授業をしてもらうための教材が必要であるということ。例えば、道徳の副読本など既存のものを使うのも可である。

#### アドバイザー

ここは多少時間をかけて議論したほうがいい。この議論では先生用、指導者用の何かをというイメージを持ちながら参画している。今まで議論したことをふまえて、指導者用に何をどうするか。それを議論したほうがいいのではないか。その場合には、具体的に教科編成をどうできるのか。第Ⅱ期のソフトランディングを期待している部分で、少し型破りに小学校で教科担任制を取り入れているところもある。そんなことも可能な範囲として、指導者側のためのものを作るか。そのあたりの議論を内部でしておかないと。全体像としてⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期はどういう願いをもちながら具体的に進めるのか、ここだけずっと先行して出しても、全体としてうまくフィットするのかどうか心配。

児童・生徒用は少し懸念している。選択肢が多いことが実は哲学の貧困にもつながる。先ほど四つ、五つの項目が決まったが、実際に使うことを常に想定しながら議論したほうがいい。もう少し加えたほうがいいと思う。まさに小中の違いというのがよく出てきた。子どもの心の活力が低下したという表現があり、子どもの力が弱ったという見方もある。子どもの変化にうまく対応できなかった指導者側の問題という議論もある。どれが一番二番ではなく、いろいろな背景、理由がある。

いつまでも議論しっぱなしという意味ではなく、相当程度議論を深めた中で、実際に問題点はここにあるとしたら、どういう工夫ができるかにつなげたい。



**事務局**

今年度指導者用に大まかな指導計画を作る。そのあと来年度、教材をつくる。

**部長**

まったく新しいものを作れといったら、大変。既存のところから引っ張ってくるしかない。

**事務局**

教材については、例えば道徳の時間だけの話をすると、さまざまな出版社の教材を買い揃えるというのも一つの方法。

**委員**

資料に使用する著作権の問題等も考えて、全体計画等を考えていかなければいけない。

資料室にあった「練馬の子ら」という小学校の文集がいい。結構いろいろなことで使える。

**事務局**

「練馬の子ら」は国語において教材にするためというのが、目的の一つである。例えば3年生が書いたら、その「練馬の子ら」は次の3年生に配布される。全員の子どもにあげる。自分たちが書いたものではなく、1年先輩の人たちがその学年のときに書いたものを教材としてもらう。だから、そのまま使えるいい資料になると思う。

**アドバイザー**

それは独自性が非常に感じられる。

**委員**

「スズシロ」という中学校の、区中研の国語でやっているものとして小中使える。

**部長**

そういう作文集でいえば、人権作文のものなどそうである。定時制高校生が卒業するまでのもの。

**委員**

最近はまだ流行っていないが、班ノートなどときどき考えさせるような文章を書く子もいる。

**事務局**

座席を決めるとき、班長が必死に考えるようなことも、いい活動の一つである。おそらく、小学校の小さい子たちにはできないが、Ⅱ期とかⅢ期においてはやらせたい活動の一つではある。

#### アドバイザー

I期とⅢ期については一応原則道徳の時間は受け入れられやすいのではないかと。いわゆるⅡ期の重なっている部分をどうしたらよいか。一番ネックはそこにあると思う。

#### 委員

この生きる命というのは、総合のこと。うちの学校ではどれを重点にするのかといったときに、各教科とか行事などとの関連。例えば、全校遠足で6年生がリーダーとしてどんな心構えで行くのかを話し合う。行事と学級活動、道徳の三つを含めている。

#### 委員

うちの学校では学年に必ず道徳担当がいて、道徳の時間の確保も基本的にしようとしている。そのときに今月はこれでいこうと会議をして、学年共通のフォーマットでやっている。一応年間計画は立てているが、それでも必要に応じて動かし、生徒の今の状況に合わせて教材も引っ張ってくる。こだわりとしては、学年共通、ベテランも新参の先生も同じものをねらいにして同じような教材を使ってしている。小学校はどうか。

#### 委員

この子たちは読み取りの力があまりないから、長い資料は読ませられないなどという変え方はあるが、1カ月に集中して同じ内容はしない。

#### 委員

うちも基本的にしない。問題は起こるが、基本的に道徳は予防なので、生活指導で学年集会を開く。

#### 委員

中学校では、小学校のイメージが、学年で統一して動いている感じがしない。そのへんの実態は、やはり学校によって違うのだろう。

#### 委員

昔に比べて小学校も学級王国主義は本当に薄くなった。今は学年主体、低学年だと特にそうだ。

#### 委員

やはり第Ⅱ期をどういうコンセプトでいくのかというときに、もうそろそろ教科担任制みたいな形でしていったほうが、多面的に受け取れるのではないかという気がする。

もし皆さんの共通項がはかれるのであれば、第Ⅱ期にどんな形でどんなものを組んでいくのか。ある程度道徳の授業をはっきり想定し、教科担任指定にしていくと簡単に授業を動かさない。誰がするかもはっきりしてしまう。そうすると、イメージが固まっていくと思う。

#### 事務局

小中の違いで私が感じているのは、小学校は道徳の時間は学級担任がやりたい。それを人に任すのは考えられないという意識が高い。例えばいじめがあったとき、説諭をし、アンケート調査をとってそれについて話し合うということを中学校であれば道徳の時間にカウントしている学校が多いように感じている。小学校は学級指導として学級活動にカウントすることが多いだろう。道徳はそれとは別に35時間確保している。

#### 委員

中学校は、道徳の時間で思いやりなどを入れて取り込んでいく。あと、問題行動が起きたときに、だいたい生活指導主任、生活指導部は関わり、何か起きたら皆でいく。小学校の場合は、そうになっていない学校もあるようだ。

#### 委員

やはり小学校と中学校って、意外と壁があってわからない。小学校から見ていると、中学校の方が学年とか組織力は、上だと思う。何か事があったときに、どうあたっていくかなど。小学校は、そういう面が少し弱いところがある。逆に、小学校から中学校に行っても不登校になってしまうことがある。それでよく聞くのが中学校の先生は話を聞いてくれない。大人として扱っているかもしれないが、それがまた、生み出しているのかと。そこをうまくできたら小中連携でうまくいくと思う。

#### 委員

時間もきてしまった。今出たのは、Ⅲ期は道徳の授業を中心にやっていこう。

Ⅱ期が一番問題に出たが、Ⅰ期もそれほど話し合われていない。Ⅰ期はおそらく生活・総合・道徳、いろいろな場面でやっていくと思われる。このへんのことを次に話し合っていきたい。今日決まったのは、5点の項目を中心に扱うこと。計画をつくっていく上では、9年間の概観、年間、月ごとの細案の3本柱でいくのがいいのではないかと。そこまでは、確定ではないが話し合った。この次はⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期をどのように扱うかを考えていただくことを宿題にしたいと思う。

#### 部長

いずれにしても、Ⅱ期もやはり道徳の時間が中心にならざるを得ない。それにいろいろな要素を加えるか、道徳単独なのか。あとは、資料について。普通今ある1年間の道徳の予定は、年間を通してと月ごとに何をやるか。今挙げているのは5項目すべてでするわけではない。何月にこれというほど、たくさん必要なのか。例えば前期と後期に分けて、一つの項目について1学期に二つぐらいあればいいのかと思う。それ以外の項目も、道徳の項目がいろいろある。それも少し考えていかないと。

#### 委員

私は、本当に小中一貫が中1ギャップのためかという疑いを持っている。しょせん学年が変われば人も変わる、そこに行きついてしまう。では何かと思ったら、小学校と中学校の先生で

の壁がある。そこを取り除いて本当に理解していったら、すごいものができると思う。練馬区でも校区別の小中連携をしている。それを本当にできるようにする試みが、小中一貫校の大きなメリットかと思った。

#### アドバイザー

今日はだいぶ本質的な議論で、核心に迫って話し合いが行われたと思う。今後も議論がある際に、常に考えておかななくてはいけないのは、小中学校は大人が勝手に分けた枠組みということ。子どもの成長のプロセスは連続しており、育ちの大筋をしっかりと認識しておくことが大事だ。子ども自身が自分に対する認知能力がどんなプロセスで発達していくのかも、育ちの筋道の中で加えていきたい。2点目は、子どもが成長するにつれて、心のありようはいろいろな環境要因によって変化する。中2で落ちる要因は、子ども自身の責任というより環境因子があるのだということを十分に認識する。対両親の関係とか、一番大きい因子は友だち関係。小学校も中学校も、指導の側として、道徳の内容もさることながら、生身の人間同士、子ども同士の関係をどう指導・形成していくのが大事なのか。

もう一つは、小中の発達に応じて学ぶことや体験を通して我慢が身につく。それを今の学校教育では非常に重要視しているが、家庭教育ではあまり重視していない部分がある。我慢を強いられたことがない子どもが小学校に入ってきて、小学校もおよび腰の指導が全国的に多い。子ども自身が悪いわけではなく、感情処理も含めた子どもの育ちに、先生方は常に苦慮している。そこにつながるようなことを、議論の中で常に出していただくと具体的な話につながっていく気がした。

#### 委員

I期、II期、III期のどの場面を中心に、心の教育を行っていくかということ、図式化したものでも何でもいいからほしい。道徳の時間でやるのが中心。比重的なものはIII期とI期で別のやり口もあるのではということ。

#### 委員

それは各教科からの道徳教育のアプローチが、小学校の方が大きいという話。小学校では、道徳は道徳の時間にやっているという気持ちはないのか。

#### 委員

宿題で規範意識を育てるカリキュラムを考えると、III期を道徳中心に書く場合、どういうことを求められているのか。

#### 委員

5項目の項目の内容によって、かなり違ってくると思う。

#### 委員

僕は、重点項目だから回数を多くして振り分けるという感覚。

**事務局**

あるいは複数時間扱うという方法もある。Ⅱ期はそれ以外にどのような方法を持ってくるか。

**委員**

先ほど決めた五つの重点項目は、複数回扱うという軽い気持ちなのか。新しい小中一貫校では、規範意識をこの9年間でつけたい、生命尊重をつけたいという大きな流れなのかも関係してくる。そこまでいけないときに複数回扱って、Ⅲ期だったら規範意識を重く置き、Ⅰ期に思いやりの心が強く入るとか、そのようなものができるかと今ふと思った。五つ出ているが、全体には生命尊重は絶対していかなくてははいけないと。そんな三期に重点項目を振り分けながら、どんなのができるか。

**委員**

でも、五つとは限らない。だからある程度その比重を多くするということがいいのではないか。

**部長**

基本的に、新学習指導要領のポイントとして掲げられたところは、今そこに挙げられているようなところ。生命の尊重や規範意識を前に出したりとか。

**委員**

次回は、それぞれの資料を用意してほしい。または、考えだけでも伺いたい。

\*次回日程：8月28日（金） 16：00～ 練馬区役所本庁舎 11階 1102会議室